

本書の刊行に当たって — 1

原著者による前書き — 17

## 第1章

### 綿密なインタビュー入門 — 19

オーラルヒストリー小史 — 21

オーラルヒストリーの定義 — 22

オーラルヒストリーは新参者 — 23

質的調査と量的調査の比較 — 24

質的調査法としての綿密なインタビュー — 28

綿密なインタビューへの分野ごとのアプローチ — 30

綿密なインタビュー記録の利用 — 31

研究ストラテジーとしてのナラティブの存在意義 — 39

ライフレビュー記録の限界 — 43

オーラルヒストリーの強み — 50

まとめ — 52

## 第2章

### オーラルヒストリーと記憶 — 53

想起—語り手にとっての重要な行為 — 53

記憶は当てになるのか、ならないのか — 54

記憶の作用に関する心理学における一般的な研究成果 — 56

老化と記憶 — 57

個人の記憶に関する研究方法 — 60

長期間保持された記憶における事実内容の一貫性 — 62

日常の習慣的な出来事と一度だけの出来事の回想 — 63

記憶における感情の一貫性 — 66

記憶における意味の一貫性 — 68

気分、感情的なニーズ、回想 — 68

ありふれた記憶とは異なるトラウマ的な経験の記憶 — 69

身体的な強い感覚—想起のきっかけ — 72

鮮明なイメージ、回想、過誤記憶 — 73

時間の想起 — 75

男性と女性における想起の違い — 77

質問者と語り手の関係が想起に対して持つ効果 — 78

個人的記憶についての学説のまとめ — 79

個人的記憶と集合的記憶 — 79

集合的記憶の下で一公の記憶と大衆の記憶 — 82

公の記憶 — 83

大衆の記憶を作り出すメディアの力 — 85

まとめ — 88

## 第3章

### インタビュープロジェクトの準備 — 89

研究プロジェクトの構想 — 90

インタビューガイドの作成 — 93

質問のための戦略 — 97

避けるべき言葉と言い回し — 104

語り手の選択 — 106

語り手との接触 — 110

インタビューのスケジュール調整 — 112

機器の準備 — 112

まとめ — 115

## 第4章 インタビューの技法 — 117

- 事前の面会 — 117
- インタビューの開始 — 121
- ラポール（信頼関係）の構築 — 123
- ラポールの喪失 — 129
- インタビュースキルの活用 — 131
  - 問題を掘り下げる質問 — 131
  - フォローアップの質問 — 136
  - 理由を尋ねる質問 — 137
  - 明確化を目的とする質問 — 137
  - 仮定の質問 — 138
  - 比較を用いた質問 — 138
  - 挑戦的な質問 — 139
- 困難な状況の克服 — 141
  - 聞くことと理解すること — 145
  - 問題の発見 — 146
- インタビューの終了 — 149
- まとめ — 151

## 第5章 法的な問題と倫理 — 153

- 法的問題 — 154
  - 著作権 — 154
  - 名誉毀損 — 159
  - プライバシー — 162
  - 機関内倫理委員会 — 163
- 倫理的な問題 — 166
  - 職業的指針における一般原則 — 166
  - インフォームドコンセント（説明に基づく同意） — 169
  - 匿名性および守秘義務 — 171

- 人間関係および評判 — 174
- 不均衡な力関係における倫理 — 175
- 語り手に損害を与える情報の公表 — 180
- 語り手が意味することの正確な提示 — 186
- 成果発表における真実：委託研究の場合 — 187
- 無意識的擁護 — 192
- 契約書における質問者の保護 — 193
- まとめ — 194

## 第6章 インタビューにおける対人関係 — 197

- インタビューが語り手に及ぼす影響 — 198
- インタビューが質問者に及ぼす影響 — 205
- 人種、ジェンダー、年齢、階級、エスニシティ、  
およびサブカルチャーの影響 — 216
  - 人種 — 216
  - 文化的規範 — 217
  - ジェンダー — 218
  - 性的な関心 — 225
  - 社会階級 — 226
  - エスニシティによる影響 — 227
  - インタビューに影響するさまざまな差異についての結論 — 228
- インタビューの語り手の身近な人びとへの影響 — 228
- まとめ — 229

## 第7章 オーラルヒストリープロジェクトの諸相 — コミュニティ研究 — 231

- コミュニティ研究における緊張 — 233
- 情報提供を求めるためのインタビュー — 239
- インタビューガイドの作成 — 242

語り手の選択 — 246  
 コミュニティの関与 — 247  
 特殊な研究状況 — 249  
     エスニックコミュニティの研究 — 249  
     職場コミュニティ — 252  
 委託研究 — 255  
 調査結果の公開 — 259  
 収集したコミュニティのオーラルヒストリーに対する  
 徹底的・批判的な観察 — 262  
 場所の重要性 — 264

第8章

オーラルヒストリープロジェクトの諸相  
 —伝記(バイオグラフィー)— 267

伝記—文学か歴史か — 268  
 なぜ伝記を研究し、執筆するのか — 270  
 ライフヒストリー、ライフストーリー、自伝および伝記の相違 — 274  
 なぜ、このライフストーリーを語るのか — 276  
 インタビューの準備と語り手の関与 — 278  
 語り手の語る予定の課題と心理がインタビューに及ぼす影響 — 279  
 質問者の課題がインタビューに及ぼす影響 — 283  
 ジェンダーが質問や解釈に及ぼす影響 — 288  
 友人、敵対者、傍観者へのインタビュー — 291  
 伝記のためのインタビューガイドへの  
 より広い世界との関係の取り込み — 294  
 研究対象者とジェンダー、人種、階級、文化という  
 文脈との関係 — 295  
 伝記研究において考えられる倫理的含意 — 297  
 伝記に特有の法的問題 — 299  
 研究対象者の家族関係に研究が及ぼす影響 — 300  
 インタビューガイドに含めるべき話題と質問 — 303

第9章

オーラルヒストリープロジェクトの諸相  
 —家族史研究— 305

社会科学研究の対象家族の探し方 — 308  
 家族へのプロジェクトの説明 — 309  
 語り手の調査参加への関心の高め方 — 311  
 夫婦に関する調査計画 — 313  
 家族の感情に配慮することと、証拠を示す必要性の対立 — 314  
 家族を対象としたインタビューの技法 — 316  
 関連物や写真のインタビューでの使用 — 320  
 家族のフォークロア(暮らしに伝わる伝統) — 324  
 語り手との解釈の相違に向き合うこと — 327  
 家族史研究において推奨される質問 — 328  
 家族のオーラルヒストリーの評価 — 333  
 家族史を研究する利点 — 334  
 まとめ — 336

第10章

分析と解釈 — 337

分野を超えた分析アプローチ — 337  
 ひとつのオーラルヒストリーの詳細な検討 — 344  
 このインタビューに対する省察 — 363

第11章

プロジェクトの完了 — 375

インタビューの評価 — 375  
 フェイスシートと情報シート — 377  
 テープの索引とマスター索引 — 378  
 トランスクリプトの作成 — 380  
     トランスクリプト作成技術 — 381  
     発話の書き起こし — 382

トランスクリプト作成に特有の問題 — 384  
句読点の挿入 — 386  
語り手へのトランスクリプトの返却 — 390  
オーラルヒストリーの出版 — 395  
オーラルヒストリーインタビューの引用 — 400  
情報の共有 — 402

## 附録

A インタビューガイドの見本 — 407  
B オーラルヒストリー学会 (OHA) のオーラルヒストリー  
評価ガイドライン — 416  
C オーラルヒストリー学会 (OHA) の原則と基準 — 429  
D 施設内治験審査委員会 (IRB) による審査から除外された  
オーラルヒストリー — 435  
E 記録保存シートの見本 — 438  
F 法的な公開承諾書 — 441  
G フェイスシートおよび情報シートの見本 — 450  
H テープ索引の見本 — 453  
I テープコレクションのマスター索引1ページ目見本 — 455  
J コンピュータを用いたトランスクリプトの索引付け指示書 — 457  
K オーラルヒストリーの引用 — 459

索引 — 461

---

本翻訳書の経緯 — 468

日本におけるオーラルヒストリーについて — 468

原著者略歴 — 470

訳者略歴 — 471